

平成20年度分の拠出結果

分別基準適合物	①想定額(円)	②現に要した費用(円)	差額 (①-②)(円)	拠出金(円)
ガラス(無色)	295,830,613	353,459,897	-57,629,284	0
ガラス(茶色)	354,631,714	392,619,487	-37,987,773	0
ガラス(その他の色)	552,982,982	647,481,680	-94,498,698	0
紙製容器包装	124,681,687	12,590,178	112,091,509	56,045,755
ペットボトル	748,730,495	95,815,966	652,914,529	326,457,265
プラスチック製 容器包装	53,324,933,384	35,120,796,861	18,204,136,523	9,102,068,262
合計	—	—	—	9,484,571,282

約95億円

拠出額が大きい市町村

順位	市町村又は 組合名	拠出額(円)	(参考)容リプラの 引渡実績量(t)
1	A市	776,763,097	27,807
2	B市	699,532,351	45,940
3	C市	358,103,788	15,045
4	D市	308,907,110	12,680
5	E市	261,392,331	9,954

拠出対象市町村への平均拠出額

	平均拠出額
全体の平均	979万円
市(458市)の平均	1,649万円
区(18区)の平均	1,523万円
町(230町)の平均	139万円
村(55村)の平均	32万円
一部事務組合(208組合)の平均	636万円

19

ペットボトルを始めとした容器包装の リユース・デポジット等の循環的な利用に関する研究会 ペットボトルリユース実証実験の様子



売り場の様子(オープン、柏市)

商品と商品POP



ペットボトルリユース実証実験結果の取りまとめ

環境省では、中間取りまとめ(平成20年7月)を踏まえ、平成20年8月からペットボトルリユース実証実験を実施し、平成21年8月7日に「実証実験結果の取りまとめ」を公表。

まとめ

○ペットボトルのリユースについて、実証実験及びLCA分析結果を踏まえると、

オープンシステム:

現時点では、85%、90%といった高い回収率を確保することが全体的には難しいため、リユースに比べリサイクルの方が、環境負荷が低い。

クローズドシステム:

概して高い回収率が見込まれるため、充填工場から販売拠点までの輸送距離を概ね100km未満等に限定すれば、リサイクルに比べリユースの方が、環境負荷が低い。

○このため、ペットボトルのリユースについては、以下のように場合を分けて考えるべき。

オープンシステム:

まずは高い回収率を確保する方策の検討等の工夫が必要。

クローズドシステム:

現時点においても、環境負荷の観点から見れば積極的な導入が望ましい。

専用の洗浄設備や十分な品質管理体制の構築や誤用を防ぐための措置が不可欠。

高い回収率が期待できる業務用のペットボトル:

導入可能性に関する検討を行う必要。

21

普及啓発事業

地域における容器包装廃棄物3R推進モデル事業

平成18年度採択事業実施地域

- ・東京都目黒区 ・京都府京都市(2事業) ・神奈川県大和市
- ・沖縄県那覇市 ・東京都新宿区 ・東京都杉並区
- ・神奈川県茅ヶ崎市 ・大阪府池田市 ・兵庫県神戸市

平成19年度採択事業実施地域

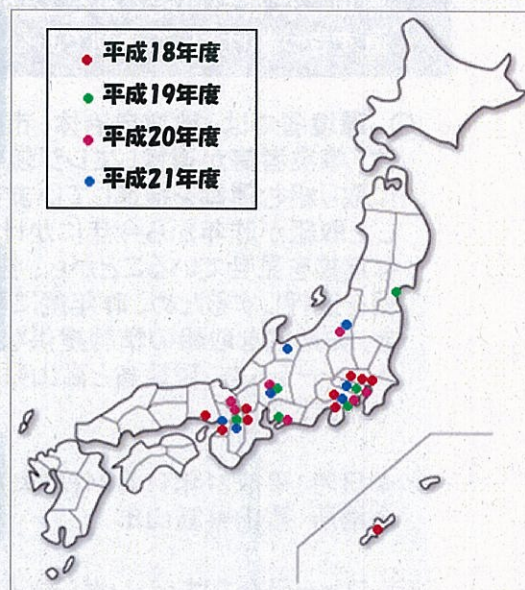
- ・宮城県仙台市 ・東京都世田谷区 ・神奈川県茅ヶ崎市
- ・愛知県名古屋市 ・岐阜県揖斐川町 ・京都府京都市

平成20年度採択事業実施地域

- ・新潟県三条市 ・東京都千代田区 ・神奈川県小田原市
- ・愛知県名古屋市 ・岐阜県揖斐川町 ・京都府京都市(2事業)

平成21年度採択事業実施地域

- ・東京都港区 ・神奈川県茅ヶ崎市 ・新潟県三条市 ・富山県富山市
- ・岐阜県揖斐川町 ・京都府京都市 ・大阪府八尾市



22